



# 高輪だより

令和6年度6月号  
港区立高輪幼稚園  
園長 佐藤 幸子

わくわく ぽかぽか  
みんなえがおの  
たかなわようちえん

## したいことを見つけて遊ぶ中で

園長 佐藤幸子

先日は、高輪タイムにご参加いただきまして、ありがとうございました。4月に入園、進級して子どもたちは、新たな生活に慣れてきましたが、子どもたちにとって初めての参観でしたので、お家の方が来てくださる喜びと、たくさんの方がいる緊張感といろいろな気持ちを感じていました。保護者の方には、お子さんの幼稚園での様子を知っていただくとともに、他のお子さんを見たり、交流したりすることで同じ園に通う仲間として親しみが増したのではないのでしょうか。うさぎ組にとっては、幼稚園で楽しんでいることをお家の方に見てもらうのが何よりうれしかったことでしょう。

幼稚園では、主体的な幼児を育てたいと願っています。これで遊びましようと言われて遊ぶのではなく、自分でしたい遊びを見つけて遊べるように、先生が子どもたちの興味関心や季節など様々なことを考慮して、楽しく遊べるような環境を整えています。

ある日、うめ組に行くと、頭に角を付けてサイになった子どもたちが、体当たりで抱き着いてきました。他にもミーアキャットになりたい子が、先生に iPad で鳴き声を調べてもらって、ミーアキャットになって遊びを楽しんでいました。これは、先日の上野動物園でのバス遠足がきっかけになり、印象に残った動物が遊びの中で再現されたものです。遠足という共通の体験があったからこそ、友達とイメージが重なり、角やしぐさなどが共通になって遊びを楽しむことができました。友達がしていることが面白そうだと、自分でもやってみたくくなります。自分のしたいことを実現していく中で、子どもたちは様々な素材と出会い、扱い方を知っていきます。最初は、先生が適した素材や作り方を提示していますが、それが子どものものになると、その子なりのこだわりや工夫がみられます。この日も、友達のサイから刺激を受けてユニコーンのイメージで、角にいろいろな色のビニールを巻いたり、リボンを付けたりしていました。

すみれ組は、最近、顕微鏡を持って、園庭をあちらこちら移動しながら、写真を撮っています。面白くて、いろいろなものを撮ってみたくくなります。見えないものが見えるという面白さや発見の喜びが「もっと知りたい」「あれはどうかな」と意欲につながっています。知らない虫を見付けると虫博士の主任教諭に「グーグルレンズで見てください」と、職員室へ持ってきます。あそこへ行けば分かるとあたりを付けるのも大切ですね。子どもにとってまさに遊びが学びです。

